

花見川公民館だより

2025年
2月号

千葉市花見川公民館 千葉市花見川区柏井町 1590-8 電話 043-257-2756 F A X 043-286-0185

今月が最後の主催事業（講座）となります 館長 篠塚 和仁

暦の上では春となりますが、まだまだ寒い日が続いております。また、千葉県ではインフルエンザが全国一流行しておりますので予防対策等にご留意いただければと存じます。公民館の裏庭では、水仙の花が咲き、春の訪れが近づいている様子が見られます。さて、年度末が近づき公民館での主催講座はこの2月をもって最後となります。すでに申し込みが終了した講座もありますが、これから募集する講座もいくつかあります。興味を持たれましたら是非ご応募ください。お待ちしております。

<2月の主催講座（再掲）>

◎「第2回子ども科学教室」～化学変化と色の不思議～

日 時	2月8日(土) 午前10時～12時
会 場	花見川公民館 大会議室
講 師	千葉市内の中学校教員
定 員	小学3年生～中学生 10人(抽選制)
参加費	無料 持ち物 飲み物、雑巾、筆記用具
申込み	終了

◎「エコクッキング」～料理をとおして環境について考える～

日 時	2月12日(水) 10時～13時
会 場	花見川公民館 調理実習室
定 員	成人15人(抽選制) 材料費 500円(当日集金)
持ち物	エプロン・三角巾・ふきん(2枚)・台ふきん(1枚)・上履き・持ち帰り容器
申込み	1月28日(火)～2月3日(月)
抽選日	2月4日(火) 当選者に7日までに連絡 窓口または電話で受付 9:00～17:00

◎「スマホを活用し健康で長生きしよう」～LINEの活用法について学びます～

日 時	2月19日(水) 10:00～12:00
場 所	花見川公民館 大会議室
講 師	生命保険会社より派遣
定 員	20名(60歳以上) 抽選 参加費: 無料
持ち物	お持ちのスマートフォン
申込み	2月3日(月)～2月9日(日)
抽選日	2月10日(月) 2月13日までに当選者に連絡します。 直接受付又はお電話にてお申込みください。

◎「花見川春風コンサート」

出演：男声合唱団「ダンケ」

日時	2月23日(祝・日) 14:00~15:30
定員	年齢不問30名程度(先着順)
会場	花見川公民館 1階 大会議室 入場無料
申込み	2月5日(水)~11日(火)
	受付時間 9:00~17:00
	問合せ先 花見川公民館 257-2756

<花見川公民館からのお知らせ> ~スマホ相談会の開催について~

2月20日(木) 10:00~17:00、1階ロビーにてスマートフォンの使用の仕方についての相談会を開催します。

普段ご使用になっているスマホの使いかたについて、ちょっとした初歩的な操作を含め、専門の担当者から指導・アドバイスをいただけます。ご来館の際にお気軽にご相談ください。

<サークルからのお知らせ> ~発表会(演奏会)について~

サークル：ハモニカ・アンサンブル・ユーカリ
日時：3月23日(日) 午後2時~
場所：大会議室

※事前の申し込みの必要はありません。多くの皆様のお越しをお待ちしております。

<図書コーナー>新着情報

- 「ハツカネズミと人間」 スタインバック著 新潮文庫
- 「常設展示室」 原田マハ著 新潮文庫
- 「室町社会の騒擾と秩序」 清水克行著 講談社学術文庫
- 「遊びと人間」 ロジェ・カイヨク著 講談社学術文庫
- 「残月記」 小田雅久仁著 双葉文庫
- 「透明な螺旋」 東野圭吾著 文春文庫
- 「ロリータ」 ウラジミール・ナボコフ著 新潮文庫
- 「あしたの君へ」 柚月裕子著 文春文庫
- 「最後の証人」 柚月裕子著 角川文庫
- 「怒りの葡萄 上・下」 スタインバック著 新潮文庫
- 「脳と音楽」 伊藤浩介著 世界文化社
- 「デートピア」 安堂ホセ著 河出書房新社 (第172回芥川賞受賞作)
- 「フェイクニュース時代の科学リテラシー超入門」 竹内薫著 ディスカバリー携書
- 「秘色(ひそく)の契り」 木下昌輝著 徳間書店 (第172回直木賞候補作)
- 「量子超越~量子コンピュータが世界を変える~」 ミチオ・カク著 NHK出版
- 「藍を継ぐ海」 伊予原新著 新潮社 (第172回直木賞受賞作)
- 「二十四五」 乗代雄介著 講談社 (第172回芥川賞候補作)
- 「ゲートはすべてを言った」 鈴木結生著 朝日新聞出版 (第172回芥川賞受賞作)
- 「手塚治虫全集~来るべき世界 ファウスト」 手塚治虫著 講談社
- 「手塚治虫全集~ネオファウスト」 手塚治虫著 講談社
- 「ダンス」 竹中優子著 新潮社 (第172回芥川賞候補作)
- 「飽くなき地景」 荻堂頭著 角川書店 (第172回直木賞候補作)
- 「ミカエルの鼓動」 柚月裕子著 文藝春秋

